

令和2年第42回 宮城眼科先進医療研究会

日時 令和2年6月16日（火） 19:00-20:00

場所 東北大学医学部 眼科学教室（WEB開催）

プログラム

1. 代表世話人挨拶

2. 特別講演

座長：國方 彦志 先生

演者：慶應義塾大学病院眼科学教室

専任講師 鳥居 秀成 先生

近視進行抑制の可能性～基礎から臨床に向けた橋渡し～

鳥居 秀成 （とりい ひでまさ）

略歴

2004年3月	慶應義塾大学医学部卒業
2004年5月	横浜市立市民病院 臨床研修医
2006年4月	慶應義塾大学医学部眼科学教室入局
2007年10月	けいゆう病院眼科
2009年4月	慶應義塾大学病院眼科学教室 助教
2014年2月	学位（医学博士）取得
2015年7月	同教室 特任助教
2017年4月	同教室 助教
2020年4月	同教室 講師
現在に至る	

3. 閉会の辞

宮城眼科先進医療研究会
近視進行抑制の可能性
～基礎から臨床に向けた橋渡し～

慶應義塾大学病院眼科学教室
専任講師 鳥居 秀成 先生

抄録

近年世界の近視人口・強度近視人口が増加している。強度近視になると緑内障・網膜剥離・黄斑疾患など様々な眼疾患を合併しやすいことが知られており、強度近視にまで至らないようにすることには異論はないと思われる。

近視は環境因子と遺伝因子により発症・進行すると考えられているが、このわずか数十年での世界的かつ急激な近視人口の増加は何らかの環境因子の変化が原因であると思われる。私達はそのひとつの可能性として、我々をとりまく現代社会においてバイオレットライトが不足している可能性を指摘し、バイオレットライトが小児・成人の近視進行抑制に重要である可能性を報告 (Torii H. et al. EBioMedicine. 2017, Torii H et al. Sci Rep. 2017) した。本研究成果は2018年4月のアメリカ白内障屈折矯正手術学会 (ASCRS) Film Festival 2018 における Grand Prize の受賞で示されたように世界で認知されだしており、最適な臨床応用が期待されている分野の1つである。さらにその研究を基礎として登場したサプリメントの二重盲検ランダム化比較試験の結果も報告 (Mori K., Torii H., Fujimoto S. et al. J Clin Med. 2019) し、サプリメントによる近視進行抑制の可能性を示した。これからさらなるエビデンスの構築が必要な分野ではあるが、本講演では基礎から始まり、症例検討や二重盲検ランダム化比較試験を行うまでのまさに「基礎から臨床へ」という流れをご紹介できれば幸いである。